

## 学校教育自己診断アンケート結果についての考察

令和2年1月7日

### ① アンケートの実施状況

- ・生徒 147名の回答を得た。回収率は88.6%であり、昨年度84.1%より上昇した。
- ・保護者 111名の回答を得た。回収率は66.3%であり、昨年度67.1%とほぼ同じである。
- ・教職員 80名の回答を得た。100%をめざしたが、87.0%の回収にとどまった。

### ② アンケート調査内容より

#### ・生徒

21項目すべて「よくあてはまる」、「ややあてはまる」の合計が60%を超えている。また、13項目でそれらの合計が70%を超えている。アンケート結果全体的に肯定的な意見が増加している。昨年度以上に学校生活を楽しんでいるものと考ええる。

昨年度、やや低い回答として⑩「将来の生き方について考える機会がある」、⑩「先生は命の大切さや社会のきまりについて教えてくれる」をあげたが、全体の傾向からみると肯定率の上積みがなく、引き続き人権教育・キャリア教育の推進が必要であると考ええる。

⑧「生徒会の行事や委員会の仕事(給食・放送・図書・保健)は楽しい」は61%で横ばい、⑩「授業や行事で近くの学校の人と交流することが楽しい」は58から63%に上昇したが、それぞれの行事について生徒に目的を明確に説明することと、振り返りを行なうことが必要に思う。

#### ・保護者

28項目すべてで「よくあてはまる」「ややあてはまる」の合計が60%を超え、26項目で70%を超えている。学校運営に関する保護者の満足度はより高まったと考えられる。

昨年度評価の低かった⑦「ホームページの運営」、⑪「進路指導の充実」、⑫「PTA活動の充実」についてはそれぞれ評価が高まっており、保護者との連携がより進んだと考える。

学校として、いかなるいじめも許さない姿勢をもち、小さな事案でも校内で情報共有し、即時に対策チームを立ち上げて対応を行ってきたことから、近年、大きな事案が発生していない。⑬「いじめについての対応」の肯定率は65%とやや低いが、「わからない」の回答が29%あることによる。と考える。

⑭「子どもは授業が楽しく、わかりやすいと言っている」について、63から68%にやや上昇したものの、さらに授業内容の充実に努めることが必要と考える。

#### ・教職員

41項目中、34項目が「よくあてはまる」、「ややあてはまる」の合計が60%を超え、24項目が70%を超えているが、昨年度の結果に比較し全般的に肯定的な意見が減少している。

教育活動に関するものでは⑬「生徒指導の関係機関との連携」、⑭「カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導」、⑮「評価のありかたを話し合う機会」、⑯「学校の教育課題の話し合い」、学校経営に関するものでは、⑰「保護者や地域の人々との交流」、⑱「校外研修の成果を伝える」、⑲「各分掌や学年間の連携」といったところでは昨年より15%以上減少している。また、⑲「教職

員の適正・能力に応じた人事」や③「初任者等への育成」、④校外の研修に参加した成果を伝える」について、否定率が肯定率を上回る状況である。

これらの状況については、今年度生徒数が増え、学校の規模が過去最大になったこと、ベテラン教員の退職や転勤とともに初任や転勤の教員が増えたことによって、学校全体の雰囲気に変化し、管理職との意思疎通、学年間や分掌間の意思疎通が今まで以上に必要であったことが考えられる。また、世代交代に伴い、新たな校務組織の作成が喫緊の課題である。現在進めているなかで、よりよい学校教育をめざす組織となるようコミュニケーションを深めていきたい。

### ③ まとめ

生徒、保護者からの肯定的な意見が増加しており、学校と保護者との連帯意識が深まりつつ日々の教育活動が行われているととらえられる。一方、教職員からの肯定的な意見が減少している要因として、校長を中心とし、よりよい学校づくりを進めるため学年・校務分掌等で、新しい取り組みや見直しが行なわれている段階であることが考えられる。今までのルーティンワークを見直し、新たな取り組みが推進されることで、肯定的な意見が今後、増加すると考える。